

第2表 単位作業別作業計画表

自 9月1日 至 9月10日

計	区	長	助	役
画				

班作業計画および実施表

実	区	長	助	役
施				

班名 _____ 指揮者 _____

計		画						実						施			
区	間	置		作時 業間	作 業 別	作 業 量	所 要 人 員		記 事	作 業 種 別	作 業 量	作 業 人 員		延 人 時	作 業 能 率 (1人1時 間当り)	作 業 比 率 %	記 事
		自	至				線	手				人	夫				
稲	宮	378.200	379.200	6.0	小直	800	42.5		敷込碎石 実延長約40%	小直	1292	62		378.5	3.41	62	
	下		"		"	850	41										
"	上	379.200	380.400	6.5	"	350	17		" 30%	軌間修正	153	10		54.2	2.82	11	
		"	380.430		"	442	21										
"	下	380.500	381.500	5.7	軌間修正	250	76		タイプレット螺打 実延長25%	"	8	1					巡検による 不良箇所
		381.000	"		"	153	10										
					巡 回		4.5		5日列車巡回	巡 回			4.5				4.5
							"										
					年 休		1.5			年 休			2.5				2.5
							2.5										
					公 休		10			公 休			10				10
							"										
					合 計		100			合 計			100				100
							"										

- 注 1 作業時間はその位置で実際に働きる時間。 4 作業能率は作業量を人時で除したものを記入する。
 2 点線の上には計画，下には実際を記入する。 5 作業比率は計画期間中における全員を100とし各作業ごとに使用した人員の%を記入する。
 3 延人時はその作業に要した作業時間の総和とする。

るか、誰でもダイヤを一見してわかるように、一定の約束によって作成表現されておらねばならないので、そのためつぎのような作成上の約束がある。

- (1) 列車運行にしたい作業する箇所では図の上部に列車運行図を記入する。
- (2) 職名、定員、出面人員(個人、班)、勤務種別、担務別等は図の左側に記入する。
- (3) 始業 ◁— 終業 —▷
- (4) 実際作業の行われる時間は —
- (5) 休憩、休息、[ヤ] または [ソ] (食事はヤ)
- (6) 睡眠 [ネ]
- (7) 作業時分を黒棒線の上に記入する。(分単位)
- (8) 作業名は標準作業時間に定められている作業の名称によって黒棒線の下に明りょうに記入する。
- (9) 時間区分の集計は右側とし、毎日繰返し作業時間(B')、年間繰返し作業時間(B'')(旬、月間等で繰返す)、作業外時間(D)、勤務時間(A)、休憩睡眠(休息)時間(C)、拘束時間(T)の順に区分する。

要するに作業ダイヤは機関全体のまたは各個人の作業に計画性を与え、1日の作業の計画量を予定するとともに、作業を平均化して実施せしめるに有効である。これによって毎日の作業をらくに継続し、労働の強化を防止し、合せて勤労意欲の向上を計らんとするものである。

参考文献 石田武雄編 経営管理の近代化。(戸田考懿)

さくがんこう さく岩工 岩石にさく岩機を用いて爆破穴をつくる職人。—機掘掘。(松島 甫)

さくどう 索道 (英) ropeway 空中にロープを架設し、これに搬器(車両)をつるし、原動力または搬器の自重を利用して人または物品を運搬する施設。

1 沿革

索道の起源は非常に古く、わが国では古くから山岳、溪谷において藤などで編んだ籠を利用して人や貨物を輸送していたものもあったが、原動力を利用したのは1644年オランダのアダム・ウェーヴ(Adam Wybe)がダンチヒにおいて麻綱で貨物を運搬したのが最初で、その後第1次世界大戦で軍事輸送に索道が利用されて以来、急速に発達するようになった。わが国では明治時代には外国から輸入し、架設されていたが、明治36年に玉村勇助氏が、単線式握索装置を考案して以来各種の新考案がなされ、今日ではまったく外国技術に依存せず独自のりっぱな索道を建設している。

2 種類

(1) 構造による分類 単線式索道、複線式索道、三線式索道および四線式索道の4種があり、単線式および複線式は貨物索道に、三線式および四線式は旅客索道に用いられる。単線式索道とは、1本の無限的に循環するロープに搬器をつるして運搬する索道をいう。複線式索道とは、運搬線路の起動および緊張停留場間に1本の固定した支索を架し、支索上を無限循環する1本の曳索(えいさく)によって搬器を移動して運搬する索道をいう。三線式索道とは、1本の固定した支索と2本の常用曳索、または1本の常用曳索と1本の制動索からなる方式で、前者を二曳索式(例、日光索道)、後者を曳索補助曳索式(例、秩父三峰索道)という。四線式索道とは、三線式の場合の支索をさらに